

2012年11月10日

(日本の文化)

今日は両国橋のたもとにある浄土宗、諸宗山回向院である。1657年（明暦3年）3月2日～4日に起きた明暦の大火により逃げ場を失って犠牲になった10万8千余人を弔うために將軍家綱の命により葬った万人塚が始まりとされる。同年建立されたと言われているのがこの回向院である。しかしその時の建築技術で同年に建立されたとは信じがたい。おそらく施工が始まったと言うのが真相であろう。

このお寺は全ての生けるものを葬る所となっており、水死者、刑死者、横死者、その他動物までもが葬られており、殊に鼠小僧次郎吉が有名である。またペットの供養もされている。

1854年（安政元年）11月4日の東海地震、11月6日の南海地震の後に1855年（安政2年）11月11日に起った安政の江戸大地震で亡くなった2万5千人も宗教を問わず此処に葬られた。

江戸時代にも見られた事だが東日本大震災復興支援として平成25年4月25日～5月15日まで長野の善光寺からご本尊の出開帳が模様された。

また防備上の観点から隅田川には千住大橋のみしか無かったのでこれを機に両国橋、その後1693年（元禄6年）に新大橋が架橋された。元々両国橋は『大橋』と呼ばれたが、新大橋が架橋されたので武蔵国と下総国を結ぶ橋と言う意味で両国橋と呼ばれるようになった。なお現在の両国橋は京葉道路に架かっており、新大橋は新大橋通り（通称、市場通り）に



(回向院)



(鼠小僧次郎吉の墓)



(善光寺如来出開帳の図)

架かっている。

1924年(大正12年)9月1日、11時58分32秒に突如として起こった関東大震災により東京は一瞬のうちに焦土と化し、5万8千人の命を奪った。このうち最も凄惨を極めたのが旧陸軍被服廠跡地で、当時横網町公園として工事中だった場所に世論が後押しして官民共同で浄財を募り震災記念堂が1931年(昭和5年9月)に竣成した。三重塔は5万8千人の納骨堂として、講堂は祭式場に充てられた。その後、昭和20年3月10日の大空襲では東京都で7万7千人もの人が亡くなり、此処に一時仮埋葬された。昭和23年から火葬が逐次進んでゆき昭和26年に完了したのを機に東京都慰霊堂と改められた。

日本には何人によらず死者を敬う思想がある。人は死ねばみんなが仏になると言う。この様な文化を我々日本人は大切にしていかなければならないと思った。



(東京都慰霊堂)



(三重塔)